

・とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	府中市子ども家庭部保育支援課
園名	府中市立本町保育所

1. 活動のテーマ

<テーマ>

野菜

<テーマの設定理由>

野菜を育てる身近な環境のなかで、興味関心や探求心を持ち取り組むことが出来ると思い、「野菜」をテーマに取りくむことにした。

2. 活動スケジュール

- 【Ⅰ期】
○苗や原木を観察し、どこで育てるか等を皆で考えながら、栽培への興味関心を持てるよう話し合いをする。
- 【Ⅱ期】
○野菜の生長の様子を子どもたち自身が関われるよう、身近な環境に設定することで自然と観察や世話が出来るようにする。世話を始めることで同時に収穫することもできる状況になるよう、観察だけでなく、触れたり、臭いを嗅ぐ経験をしてみる。生長していくこと様子を見て、興味関心が広がり、様々な発想が出てくるようにする。
- 【Ⅲ期】
○収穫したものを給食室で調理し、味わってみる。味付けのリクエストをすることで、栄養士とも話しながら自分の好みに気づき、食に関する興味関心が広がるようにする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- 栽培物を身近で育てることが出来るようにするための身近な環境（テラスや園庭等）
プランター・土・肥料・苗・しいたけ原木・デジタル顕微鏡・デジカメ
- 栽培するうえで興味関心に応じた環境設定
テラス・園庭・畑・園芸ネット等

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- 【栽培】
・しいたけの原木を観察し、どこに設定をして育てるか、全員で考える。それぞれが意見を出し合い、図鑑等で調べ、数か所に設置する。毎日、それぞれの場所で生長の様子を観察する。
- ・ゴーヤをプランターで栽培。2 階からネットを設置し生長の様子を観察する。
- 【観察他】
・身近な場所で観察し、触れる等の五感で感じる体験や収穫をして食育も行う。調理の課程を体験し味わう。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

- ・初めてゴーヤやしいたけの栽培を体験する子どもたちが大半で、育っていく様子を日々目にする中で興味関心が沸き、図鑑やルーペを使いながら観察をしようとする姿を見せるようになってきていた。
特に、しいたけの栽培は、子どもたちの発想で、栽培場所をいろいろ変える等の工夫をしたことで、子どもたち自身が生長の変化を感じ、より栽培のことを追究しようとする姿を見せるようになってきた。生長の変化が激しく、収穫がすぐにできることでも興味関心が増していたとも考えられた。特にしいたけの生長のあまりの速さに驚いていた。収穫では、どのように収穫するか、食べることは出来るかなど、期待を持ちながら取り組むこともできていた。
- ・ゴーヤ自体を初めて目にする子どもも多く、収穫するまでをよく観察していた。保育者とともに観察をしたり、疑問に感じたことを保育者に聞いたり、一緒に考えることもしていた。食育の段階では、調理の様子だけでなく実の観察をするなかで、どこに実っているか、本数や形等をよく見て、周囲の友だちや保育者に発信していた。収穫したものを口にしたなかでは、あまりの苦さに驚き「びっくりした！」という感想が多く出ていた。



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

- ・初年度ということで、どのように進めていくかを悩みながらも、子どもたちとともに楽しみ、工夫しながら取り組んできた。色々な野菜は育てた経験はあるが、しいたけとゴーヤを栽培する経験はなく、担当自身も調べたり、職員からの助言をもらい進めてきた。「なぜなんだろう」と思うことを子どもからの言葉を聞こうと思っていた。子どもたちも見つける、気づくことは言葉にできるものの、より深い探究「なぜなのか」を言葉にすることは短い期間では難しいようだった。不思議なことや疑問に感じたことを伝えていく必要性を感じた。
- ・しいたけの栽培では、原木を見ることも育てることも初めてではあったが、子どもたちと一緒に考えていきたいという思いから、子どもたちに問いかけ、反応を受け止めることを大切にしていこうと心がけた。すぐに収穫出来たものの、その後は生長が止まってしまう、様々な情報を収集しながら、あらゆる方法を試してみたが、収穫が途絶えてしまった。また、栽培をする過程で、無事に収穫できたことを喜ぶだけでなく、収穫できた個数を保育所全体で共有してもよかったと反省した。様々な子どもたちの反応に対して、担当としても工夫する必要があると感じた。これらの反省を次年度にも引き継いでいきたいと思う。
- ・今年度は、収穫までできたが、子どもたちとは片づけまでを一緒にを行い、次年度に向けて土を足し耕したりなどすることで次年度に向けて新たな活動につなげていきたい。